

桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に関する意見等の募集結果

番号	項目等	意見等の概要	市の考え方
	(ページ)		
1	全般	<p>桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「桶川市人口ビジョンに掲げる人口の将来展望を実現するための施策」という位置づけになっているが、国においては、「地方版総合戦略」という形になっている。その策定・実施に当たっては、「地方公共団体に限らず、住民代表に加え、産業界・大学・金融機関・労働団体（産官学金労）が連携し効果的な施策が実施されるよう、戦略の策定から、担い手の選定、具体的な進め方まで、それぞれの代表も加わった形で、PDCAサイクルに基づく分析を徹底して行うことが重要である。」となっているが、今回の桶川市の策定は、多様な立場の意見やアイデアが見られない。</p> <p>その結果、総合振興計画の抜粋にデータを加えたものと変わらなくなっているのに失望をした。従来型の計画や戦略がすでに限界に達してきているとの認識が乏しいがゆえに、豊かな発想をもとにした抜本的改革や戦略が見られない。</p> <p>この戦略の原則は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自立性（自立を支援する施策） (2) 将来性（夢を持つ前向きな施策） (3) 地域性（地域の実情等を踏まえた施策） (4) 直接性（直接の支援効果のある施策） (5) 結果重視（結果を追求する施策） <p>とあるが、それが徹底されていないと感じる。</p> <p>従来の形式的パブコメを行うのであれば、そもそもこの戦略に期待するものはないと受け止めるが、以下、典型的な部分を抜粋し、抜本的改変を期待したい。</p>	<p>桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）（以下、総合戦略）は、国が定めた「長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、策定にあたっては、産・官・学・金・労・言からなる有識者会議のご意見を踏まえ、策定しています。</p>

2	第1章 p3	目指す姿について、「結婚・出産・子育てに関する様々な課題を解消し、希望する人が安心して子どもを産み、育てられるまちづくりを推進します。」に斬新さや希望が見えない。	人口減少の抑止策として、希望する人が安心して子どもを産み、育てられるまちづくり、ベッドタウンとして定住環境の魅力を高めるまちづくり、ライフステージに応じた身近な雇用の確保、ふるさと回帰による人口増などを総合的に推進していきます。
3	第1章 p3	そもそも目標数値を立てるのは勝手だが、女性として産む役割を期待するかの施策は不快な部分がある。本来人間として、尊厳と安心した生活が保障されてこそその子育て環境である。そのための労働、所得、子育て費用、サービス（子育ての担い手）環境、税制、多様な生き方が保障されていない問題をきちんとした課題として受け止め、それぞれに具体的施策を提示しない限り、数値目標は意味をなさず、5原則が徹底されていない。	合計特殊出生率は、国が目標として掲げる値を踏まえ、本市における現在の出生率を参酌しています。男性、女性に関係なく、ライフサイクルの中で、子育てしやすい施策を展開していきます。
4	第1章 p3	まずは、どのようなまちにするかのビジョンが必要なのではないか。	総合戦略の将来像（ビジョン）は、ベッドタウンとしての地域性と至便を活かした移住定住策を展開し、「安心して生活し、子育てができ、高齢になっても住み続けたいと思われるまち」としています。
5	第2章 P7	基本方針について、戦略を策定する際の基本方針を「子育て環境の充実」、「移住、定住の促進」、「ふるさと回帰」としているが、中身は従来の振興計画などと変わらず、桶川に住んで子どもを産んでほしい、ということしか伝わらず、打算的である。人としてどのように尊重されるのかの視点が欠けている。	総合戦略は、ライフステージに着目し、若者や、住宅を取得する子育て世帯に対し、効果的な施策を展開することとしています。子育て世帯の転入促進、転出抑制によりライフサイクルの好循環を促していきます。

6	第3章 P9	区画整理事業も単に進めるだけでは、地価やコストのみで選択することになる。[建築行為と子育て世帯の居住地には一定の相関があります。]と書かれているが、それは現状の分析に過ぎない。転入促進・転出抑制に効果があると考えられるとあるが、それは極めて限定的である。	現状、土地区画整理事業を施行している地区では、住宅開発により人口が増加しています。これは、良好な居住環境の整備が、都心への利便性と相まって、子育て世帯から選択されているものと認識しています。総合戦略では、これを強みとし、子育てや居住環境といった魅力づくりに取り組み、転入促進、転出抑制に取り組んでいきます。
7	第4章全般 P11～	基本目標について「1若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、2新しいひとの流れをつくる、基本目標3：安定した雇用を創出する」とあるが、その戦略もありきたりである。また、違和感のあるものとして、「口腔歯科健診など妊婦健診の充実」は、目標に必ずしも合致しない。市の政策に無理やり結び付けている感がある。また、肝心の産科医がいない現状を打開せずして、目標も戦略も意味がない。	「安心して生活し、子育てができ、高齢になっても住み続けたいと思われるまち」の形成を図るため、「子育て環境の充実」「移住・定住の促進」「ふるさと回帰」を基本方針とし、この方針に基づき基本目標を3つ掲げています。 出産、子育て環境の充実を図る取組みのひとつとして、口腔歯科健診など、妊婦健診の充実を掲げています。 産科につきましては、全国的に産婦人科医が不足している昨今、課題として認識をしており、誘致に向け検討していきます。
8	第4章全般 P11～	アンケートを基本に目標値を立てるのは意味がない、アンケートはあくまでも個人差があり、結果として形のあるものではない。具体的な経済指標や出生率につながるものでない限り、設問次第で、どうにでも変えられるアンケートは目標にそぐわない。	目標値（指標）につきましては、人口や出生率といった定量的な指標に加え「ふるさと愛を育む環境をつくる」といった、市民の感覚により効果を図る必要があるものは、アンケートによる指標としています。
9	第4章全般 P11～	その他、総合振興計画を抜粋して戦略、戦術を書いているのでは税金のムダづかいである。	総合戦略は、総合振興計画、関連諸計画及び既往事業の中で、特に人口減少の抑止に効果的なものや、人口ビジョンの実現に必要な施策を戦略として掲げています。

10	第4章全般 P11～	<p>以下、新たな視点で多様な参加者を募り、計画策定が遅れても作りなおす視点として考え方をのべる。</p> <p>マイナスをプラスに変える視点で考える。課題としての、高齢化は避けられない。しかし、桶川の持ち家率は80パーセントとなっているのであれば、2世帯住宅への誘導、親が子育て世代を呼び寄せるための誘導などにインセンティブを与え、人口流入を促すことは可能である。大田区の高級住宅街では、固定資産税や相続税が負担となり、土地を分割して2世代で家を建てている所がふえているが、結果として人口増になっている。介護費用、医療費抑制など地域ケアシステムの担い手など、多面的複合的効果が期待できる。</p>	<p>総合戦略では、ライフステージに着目し、ライフサイクルの好循環を促すこととしています。子育て世帯の転入促進、転出抑制により、ふるさと回帰による2世帯同居や近居による親の子育て支援など、さまざまな派生する効果を相乗させ「つながり続けるまちづくり」を醸成していきます。ご意見にある具体的な誘導策につきましては、他の自治体における先進事例などを踏まえ研究していきます。</p>
11	第4章全般 P11～	<p>食への視点が欠けている。桶川は産直野菜や畜産物が身近にあり、子育て世代と高齢者の関心事である食への安全は、住みやすさの評価が大きい。また体験農場など、高齢者、子育て世代、地域のコミュニティの醸成などからも重要なツールである。</p>	<p>地域コミュニティの醸成による地域との強い結びつきは、転出抑制、転入促進に効果があるものと認識しており、今後、地域資源をいかした取組みを展開していきます。</p>
12	第4章全般 P11～	<p>住環境としてのグレードをあげるのは、環境と文化である。まず区画整理で緑を失ったことを嘆く市民は多い。また、市民一人当たりの公園面積が県より著しく低いお粗末さの解消が、喫緊の課題となっていない。駅周辺のマンション需要や人口流入はかなりの実現性があり、そのためにも人口密集地の緑地や公園は戦略として位置づけるべきである。</p>	<p>総合戦略では、住みよい生活圏域の構築を図る取組みとして、都市公園や身近な広場の充実を掲げています。</p>
13	第4章全般 P11～	<p>文化施設や振興に触れていない。定住を促すのは、教育環境である。子どもたちの身近な場所に博物館も美術館、音楽ホールなどがあり、日常的に優れた文化に触れることは、人づくりともなり、定住、回帰に直結する。</p>	<p>総合戦略では、ふるさと愛を育む環境をつくる取組みとして、地域の歴史や伝統文化についての学習機会の提供を掲げています。</p>

14	第4章全般 P11～	さすがに観光施策については詠っていないが、市民が求める観光が必要である。家に帰ってホットする、自然に触れるところがあるというまちは、市民の愛着が深いまちである。荒川太郎衛門や、三つ又沼ビオトープ、江川湿地などは関東でも屈指の自然豊かなところでありながら、桶川の魅力になっていない。これからの時代は自然環境豊かなまちがグレードの高いまちであり、予算を伴わなくとも、市の方針次第で工夫が可能である。	豊かな自然や歴史、文化など本市の地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいきます。
15	第4章全般 P11～	深刻になっている空き家の増大を逆転の発想で活用する。不動産として市やNPOが管理し、改造の手助けや改造費の貸付や助成などで、安い家賃で一戸建てを貸すことで、子育て世代の転入を促す。固定資産税の滞納防止、空き家の管理など、複合的な効果が得られる。	人口減少の進展に伴い、今後、空き家は、増加していくものと認識しています。空き家対策につきましては、住宅ストックの活用策など、他自治体の先進事例などを研究し、制度設計等、施策について検討していきます。
16	第4章全般 P11～	以上、アットランダムに挙げたが、多様な市民の意見をとれ入れる場を設定して、他にはない斬新かつ現実的な計画とするよう求めるものである。	ご提案いただいた事業につきましては、総合戦略に掲げる取組の中で実現等について、検討していきます。
17	第4章 p12	理想の数の子供を産み・育てやすい環境を作るにつき、東京・さいたま市へのベッドタウンであることをふまえ、桶川駅を中心に8～19時、できれば7～20時対応の保育所及び学童保育所を選択の余地がある程度まで充実させて欲しい。特に学童保育は、第2子以後の出産のバックアップとして、また子育て期間としての職場内の支援が薄くなり、定時就業（と通勤時間）をこなせるように時間に余裕が必要である。他市でも待機児童無しが公表された後、子育て世代の転居が殺到したなど、有効性が期待できる。	<p>少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化する。多様な保育サービスの充実が求められています。</p> <p>この様な中、子育てに負担を感じない環境の整備、働きながら子育てするための施設・制度の充実に取り組み、子どもを育てることに魅力を感じるまちづくりを推進していきます。</p> <p>子育て支援策といたしまして、平成28年度より、平成19年度からの病後児保育事業を拡充し、病児保育に取り組みます。また、放課後児童クラブの待機児童の解消を図るため、施設整備を行います。</p>

18	第4章 p12	基本的に若者を増やすべきです。つまり少子化対策です。いかにして桶川の子どもを増やすか。女性の出産適齢期である25歳～35歳くらいの妻がいる夫婦世帯を増やすのが、最も基本となる考えだと思います。つまりその年代の夫婦に桶川に住んでもらうわけです。	現状、坂田・日出谷地区において、土地区画整理事業を推進しています。この事業は、道路、下水、公園といった生活都市基盤を面的に整備し、防災面も含め良好な居住環境の形成を図るものです。これにより、住宅開発が行われ、子育て世帯の転入が促進されています。 土地区画整理事業といったハード整備に加え、多様な保育ニーズに応じた事業を展開し、子どもを育てることに魅力を感じるまちづくりを推進していきます。
19	第4章 p12	平日に2時間程度でいいので子どもの面倒を見てくれる設備があれば助かると思います。既にそういった設備や保育所などで1日だけの保育などもあるとは思いますが、近所のどこにあつてどういう利用方法なのかわからないので利用したくてもしない人が多いのではないかと思います。市としてそういう設備がありますよと子育て世帯にチラシなどでお知らせするのもいいかもしれません。	地域で子育て家庭の育児や就労を支援するファミリー・サポート・センター事業を推進しています。 子育てをサポートする施設や制度などの情報提供につきましては、現在、市ホームページに子育てマップなどを掲載しています。 利用しやすいサービスの観点から周知方法について検討していきます。
20	第4章 p12	最近結婚に興味が無い若者もいるので家族や家庭の大切さなどを小さいうちから学校などを通して教育するのも良いかもしれません。特に女性には安全に出産できる適齢期というものがあるということを学校の保健などの授業を通して若いうちからしっかり伝えて欲しいです。	思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい職業観など豊かな人間性や社会性を育む教育を推進し、人格形成に大きな影響を与える学校教育の段階において、しっかりと自分の夢や結婚を含めた生き方などの将来像について考える場と機会を提供していきます。
21	第4章 p12	仮に若者が増えたとしても出会いがなかなか無いということもよく聞くので市としてもっと出会いのイベントを増やして、告知を積極的に行なうのも良いかもしれません。	地域での交流や出会いのきっかけを創出することを目的としたイベントの実施を検討していきます。

22	第4章 p13	<p>子どもの教育環境について、他の市とは異なった特色を出すことができれば、子どもがいる世帯が引越しを考える際の候補になるかもしれません。</p> <p>例えば「桶川市の学校では英語教育に力を入れています！」とか「お金に関する教育に・・・」とか「理科の実験に・・・」「パソコンの勉強・・・」「プログラミング・・・」など、何か1つ桶川の学校ではちょっと変わっているけど将来役に立つようなおもしろい教育を取り入れていると注目を浴びるかもしれません。</p>	<p>子どもたちが学んだ知識や技能をもとに、自ら考え、互いに学び合うことを通して、様々な領域で活用していく能力をはぐくむ教育環境を整備していきます。</p> <p>豊かな自然や歴史的な遺産、文化的な施設など教育的資源を活かした体験や交流を通じ、豊かな心や郷土愛をはぐくむ教育を推進していきます。</p>
23	第4章 p13	<p>一般的に夫婦になったからにはできれば子どもが欲しいのでとりあえず1人は生みます。しかし、多くの夫婦が理想は2人だと言いつつ金銭的な理由で2人目を諦める傾向にあると思います。結局夫婦2人と子ども1人の世帯が増え、少子化が進みます。市の予算的に難しいとは思いますが、簡単な方法は2人目の子どもにかかるなんらかの費用の削減や、金銭補助の追加だと思います。</p> <p>それ以外では、子ども1人を育てるにかかる費用の目安をまとめて資料を作り、なんらかの形で発表したり配布したりするのも効果的かもしれません。</p> <p>実際のところ子どもを育て上げるのにいくらかかるのかわからなくて、なんとなくお金がかかりそうだからという理由で2人目を諦める夫婦も多いと思います。</p>	<p>直接的な経済的負担の軽減や支援につきましても、財政状況を踏まえ、他の自治体における先進事例などを通じ、研究していきます。</p>
24	第4章 p13	<p>金銭面で問題がなくても子育てを手助けしてくれる人や親が近くにいないと2人目を躊躇する人もいます。</p>	<p>総合戦略では、ライフステージに着目し、住宅を取得する子育て世帯に対し効果的な施策を展開し転入を促します。</p> <p>本市で育った若者が、家族や地域とのつながりを大切に思い、将来的な転出抑制やふるさと回帰による2世帯同居、近居による親の子育て支援が期待できます。</p> <p>ライフサイクルの好循環を促し「つながりつづけるまちづくり」を醸成していきます。</p>

25	第4章 p14	<p>住んでもらうにしても流動的な賃貸よりも戸建てやマンションを購入してもらう方が、より長年住んでもらえるのではないかと思います。桶川の土地を考えると戸建て世帯を増やす方が楽かもしれません。そうすると区画整理を進めることが重要になってくるのではないかと思います。それと同時に夫婦世帯に住んでもらえるような街作りが必要になってくると思います。</p> <p>私が桶川市を選んだ主な理由は、「2ヶ所のスーパーが徒歩圏内にあること」、「都市ガス・上下水道が通っていること」、「明るい町並み」です。</p>	<p>現状、坂田・日出谷地区において、土地区画整理事業を推進しています。この事業は、道路、下水、公園といった生活都市基盤を面的に整備し、防災面も含め良好な居住環境の形成を図るものです。これにより、住宅開発が行われ、子育て世帯の転入が促進されています。</p> <p>土地区画整理事業といったハード整備に加え、日常生活の利便性の向上について施策を展開していきます。</p>
26	第4章 p15	<p>旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地整備につき、運動公園の臨時滑走路化やホンダエアポートとの連携の上、修復した零戦の本拠地あるいは保管地としての誘致は検討できないか。</p> <p>その際、クラウドファンディングで予算の補填及び企画のPRとすることはできないか。</p> <p>各種イベントに零戦が参加する際、分教場及び桶川市のPRをお願いすることが条件にできないか。</p>	<p>旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地整備につきましては、現在、整備に向けた調査、検討を行っています。今後の検討の中で、研究していきます。</p>
27	第4章 p15	<p>滞留・消費を生み出す交流拠点をつくるにつき、「平成桶川宿構想」を提示します。</p> <p>高崎線の駅が圏央道ICに近接し、東北道、関越道などへアクセスしやすい点をふまえ、南小跡地、西口公園の一部を使用して、観光バスのターミナル化を進める。その乗り継ぎ客を相手とする飲食店その他を誘致する。</p> <p>ターミナルは早朝・夕方は県内各高校・大学のスクールバスの優先エリアとして誘致することで子育て世代・若年層へのアピールとする。</p>	<p>平成27年10月、市内、圏央道が全区間開通し、桶川加納ICが開設されました。このような中、広域交通網の結節点として、企業誘致や道の駅などの施策を展開しています。また、中心市街地となる駅周辺につきましては、駅東口駅前広場の整備を推進し、ターミナル機能の強化に取り組んでいます。</p> <p>成田・羽田空港も含め、広域圏への利便性が高まることから、観光バスなどのターミナル化についても検討していきます。</p>

28	第4章 p15	<p>バスの路線図がわかりにくい。市で運営している市内循環バスの路線図はありますが朝日バスはありませんでした。一般のバス会社なので市のホームページに載せることはできないのかもしれませんが、同時に掲載してまとめていただくとさらにわかりやすく、これから桶川で土地探しする人の手助けに必ずなると思います。桶川市にも結構バスが運行していてそれなりに交通の便が良いと印象付けることもできると思います。</p>	<p>市内循環バスも含め、利用しやすい公共交通機関の周知方法について、検討していきます。</p>
29	第4章 p16	<p>若者に住んでもらうなら大きな会社を企業誘致してそこに入社する若者を取り込んだ方がよい</p>	<p>広域交通網の結節点として、現在、企業誘致に取り組んでいます。ライフステージに応じた、身近な雇用の創出を図ります。</p>